

研究会開催についてのご連絡

第一回の研究会の討議をよまえて、今年度の主題を、村落生活の主体的再編成をめぐって、ということになりました。

昨年は村の破壊をやりましたので、今年は村の再建をやるうというわけです。資本による農業と農家生活の破壊が進み、村落そのものも変質させられました。農法の変化、流通圏、生活圏、情報網の拡大や、町村合併、農協合併などにより、村落そのものも資本により再編成させられつつあります。その変化の推移を昨年度は、破壊と認識し討議が進めら

れたわけです。

しかし、破壊と置いたために、生活が前面に出て、村落構造のどの部分が、どのように破壊され、村落のもつ機能が、どう変わったので農家生活にどのような変化をもたらしたのかという、「村落」とそこに住む者の「生活」とのかかわり合い方が、裏にかくれたような気がします。つまり「ムラ」抜きの村研の観がなきにもあらずでした。

一方、村の崩壊とか集落の空洞化とか、農村の都市化といわれつつも、昨年の安達報告にもありましたように、集落の持つ、土地保全、土地利用の機能は失われておりません。また、農業経営や農家生活への村落の補完機能も否定できません。資本による破壊にたいし、農民の主体的な農業、農家生活防衛の闘いが、村落という枠組を自治的に再組織化していく動きもありません。

具体的には、現在のわが国の農業経営に村落の補完機能の必要性が農業経営学のサイドからも言及されています。が補完機能を果しているといわれる村落は、現代一体どのような構造に変化しており、そのどの部分構造が、農業経営にどのような機能を果しているのかはツメられておりません。農家生活と現代の村落との相互関係についても同断です。

そこで、本年は、農業経営、農家生活と、村落構造の機能的相互連関を明らかにするという過程を通じて、現代日本の「村落」をどう概念すべきかを目的にした研究会を計五回（今後四回）行い、大会へもり上げていきたいと思えます。

第二回は、九州で、主に農業経営サイドから実証的分析結果を聞き、そこにのべられる「集落」「村落」というものの実体は一体なんである

かを社会的に考えるという形式で行うことになりました。第三、四回については、それぞれの委員で構想が練られつつあります。以上経過を御報告するとともに、今後の進め方をお知らせします。

(宿題委員世話人 山本陽三)

第二回研究会(九州)

日時 三月二日(土) 午前十時半—五時

会場 福岡県農協中央会会議室

発表

- 1 農業経営と村落 長 憲次(九大)
 - 2 農村展開と村落 水本忠武(九大)
 - 3 農村生活への村落の補完機能 岩谷三四郎(愛媛大)
- 会費 昼食代コーヒー代計千円

第三回研究会

日時 四月五日午後一時より

場所 東北大学経済学部会議室(仙台駅前通・日立ファミリースェン

ター前発宮城教育大行又は東北大工学部行バス、扇坂下車)

報告テーマと報告者

農業生産組織の変容 多々良 翼(宮城学院女子大学)
集落再編成の実態 大川 健嗣(山形大学)